

2 ページ

## Basic Information / 基本情報

### Duration / 開催期間

説明：～年～月 から ～年～月まで

2013年06月01日～2014年10月19日

### Staff / スタッフ

説明：青年会議所メンバーの参加人数

例：何人 ○○member

公益社団法人仙台青年会議所メンバー 114名

※13年 73名 14年 41名 事業実施時メンバーのカウント

### Sponsors / 支援者

説明：青年会議所以外のメンバーがいる場合のみ記載してください

例：○○市ボランティア団体等

・仙台市民作品応募者数 1010名

※2013年、2014年合計

・作品展示会場来場市民 400名

※展示会場2カ所2013年、2014年合計の延べ人数

・民間企業 43社

・仙台市役所

・応募作品選考委員会

(市役所有識者4名、民間企業有識者2名、市民有識者6名) 12名※2年間

### Budget 予算

説明：ドルで表示してください。

例：1万円なら one hundred dollar

2013年 3,450,000円

2014年 3,500,000円

### Profit / Loss 利益／損失

説明：基金を集めること以外は、0にしてください

0

Which UN MDG best fit (if Apply)? UN MDGs の該当項目 (もしあれば)

説明 :

Who is benefited? 誰の為に?

説明 : 活動エリアに住み暮らす人々 人

仙台市に暮らす市民 107万人

Objective 目的

説明 : (例 1) 子ども対象の事業をベースにして、参加者とメンバーの意識を変革を促し、前向きな変化を創り出すため

- ① 住暮らす地域に対して、市民が人、モノ、歴史などのまちを形成する要素を再認識する機会を提供し、地域社会へ積極的な関心を持つことを目指す。なぜなら、まちを形成する要素に対する認識が20%と低い結果が出ているためである。
- ② 民間企業や行政との連携を推し進め、市民が能動的に活動する環境を目指す。それは、社会に対する意識で「市民活動に参加できない」が70%という調査結果であることが判明したためである。

## Overview 概要

説明：必ず結果と合致しているはず

- ・仙台は、日本の都市の中でも、自然に恵まれた歴史のある都市である。2011年の東日本大震災以降、人や自然との関わりをより重要視するようになった。
- ・JCI仙台は発足当初（1950年代）から行政とともに活動を行っている。更に強固な推進をするために、民間企業とも連携し、市民を巻き込んだ継続事業も行なっている。
- ・JCI仙台は、市民の考える「地域のたから」を「絵・写真・川柳」の3部門で募集した。  
（「地域のたから」＝人、モノ、歴史などのまちを形成する要素）
- ・JCI仙台は、募集した作品の想いや魅力を記載した展示会を開催し、人、モノ、歴史などのまちを形成する要素を再認識することで地域に対する関心の向上を促す。
- ・JCI仙台は、民間企業や行政から協力を得て作品を生活に近い地下鉄やバスに掲示し、多くの市民へ公開し地域に対する関心の向上を促す。  
※仙台市人口107万人  
地下鉄一日乗車員数17万人 仙台市情報開示内容  
バス一日乗車員数 4万5千人 仙台市情報開示内容（バス旅客）
- ・JCI仙台は、有識者とともに選考委員会を立ち上げ、作品の評価を行いました。
- ・まちの魅力を多くの市民に伝えるためオリジナルポストカード13,000枚を作成し地下鉄各駅や市役所、百貨店、飲食店などで配布した。
- ・入賞したある小学生を担当する先生から電話を受け、入賞を喜び駆け寄ってきてくれた。以前よりも積極的な活動がみられるようになった。という報告を受けた。

## Result 結果

説明：複数の短い文章になるように注意してください

目的がどのくらい達成できたか書いてください

上記の結果の想定外の結果を書いてください

上記の結果の確認方法を書いてください

検証結果を簡潔に書いてください

- ・ J C I 仙台は、自由に観覧できる地元百貨店、市役所、コンベンションホールで展示会を開催し、それぞれ2週間市民400名に対し、作品を公開した。その結果アンケートでは7割の市民が人、物、歴史などのまちを形成する要素に対する関心を持ったと返答している。
- ・ J C I 仙台は、2年間にわたり事業を継続し、行政の継続的な協力を受諾頂くと同時に民間企業の協力も増え、事業目的の理解が拡大してきている。なぜなら、民間企業の協力数が2013年15社、2014年28社と飛躍的に増加している。

## Actions Taken 行動

説明：

- ・ 2013年01月 まちを形成する要素に対しての認識が20%と低い結果が出ていることから、市民の地域社会への関心向上を目指す事業を開始した。
- ・ 2013年04月25日 プレスリリース開始  
(shinbunsha1sha TVkyoku2sha) 9  
行政への事業参加、協力要請開始  
(仙台市長への事業推進依頼、市役所との連携強化、地下鉄への作品掲載依頼、市庁舎作品展示依頼)  
※市長の受賞式参加、市長賞の確定  
民間企業への事業後援、協力要請開始  
(バス作品掲載依頼、趣旨への賛同と協賛依頼、)
- ・ 2013年06月01日 「絵・写真・川柳」の作品募集を開始。  
※「絵」・・・人、物、歴史を自身で描く  
「写真」・・・人、物、歴史を切り取る

「川柳」・・・人、物、歴史を言葉で表現する

※「公式WEBサイト」

作品募集のために設置

・2013年07月 行政からの協力受諾を確認した。また、仙台市長賞の受託を受けた。

各民間企業からの協力受諾を確認した。

・2013年09月 作品集編集作業開始。

民間企業へ3か所200作品展示を開始。

(～2013年10月6日)

※来場者数180名

・2013年10月 市庁舎へ作品展示を開始。(～2013年10月24日)

バスへ作品掲載開始(～2014年10月15日)

・2013年11月16日 市民237名参加のもと受賞式を開催した。

・2014年01月 市民の地域社会への関心向上を目指す事業を昨年に続き開始した。

・2014年06月06日 プレスリリース開始

(新聞社6社 TV局4社 ラジオ3社)

行政への事業参加、協力要請開始

(仙台市長への事業推進依頼、市役所との連携強化、地下鉄への作品掲載依頼、市庁舎作品展示依頼)

※市長の受賞式参加、市長賞の確定

民間企業への事業後援、協力要請開始

(バス作品掲載依頼、趣旨への賛同と協賛依頼)

・ 2014年06月23日 「絵・写真・川柳」の作品募集を開始。  
公式WEBサイト開設。

- ※「絵」・・・人、物、歴史を自身で描く
- 「写真」・・・人、物、歴史を切り取る
- 「川柳」・・・人、物、歴史を言葉で表現する

※「公式WEBサイト」  
作品募集、作品掲載を主として、今後の事業を市民団体等に譲渡継続するために設置

・ 2014年08月 行政からの協力受諾を確認した。また、仙台市長賞の受託を受けた。  
各民間企業からの協力受諾を確認した。

・ 2014年09月21日 有識者による作品選考委員会を開催し受賞作品を決定した。

・ 2014年09月 作品集編集作業開始。  
民間企業へ3か所200作品展示を開始。  
(～2014年10月15日)  
※来場者数220名

・ 2014年10月 市庁舎へ作品展示を開始。(～2014年10月30日)  
地下鉄へ作品掲載開始(2014年12月15日)  
バスへ作品掲載開始(～2015年10月20日)

・ 2014年10月19日 市民200名参加のもと受賞式を開催した。

※2015年04月 未来を創造する子供たちに対し、地域社会への関心を促す機会を与えるために、小学校126校、中学校66校へ事業の掲載された資料が配布された。

※受賞式を通じて市民が、継続して交流を行ない、新たな写真サークルが形成され、まちをテーマとした企画（写真展）が進行中である。

※次年度民間企業へ事業移転予定である。

## Recommendations 考察や推奨

目的のうちどの部分が達成されたのか？

達成できなかった部分は、何か？

それは、なぜか？その改善策は？

J C I 仙台は、市民からの作品募集、行政と民間企業との連携を通して、下記の内容で目的を達成した。

①作品募集をした市民が、作品を通して「仙台」を改めて見つめ直すことで新しい魅力や価値を見出し、関心を持つ能動的な市民になった。なぜなら、回収したアンケート689枚の内8割の市民から、仙台に対する考え方や意識が変わったという積極的な意見があった。

※意識向上が見られる意見＝「仙台に愛着を感じた」「地域の行事に積極的に参加していきたい」「住みやすい環境を子供たちと形成していきたい」など意見が5割に達している。

②公式WEBサイトを作成して、作品を募集・公開し、その結果、サイトに総数で5444件のアクセスがあった。専門家からはアクセス数が多いとの評価を受けた。

・「目的が達成できなかった内容は下記である」

2013年より継続して行なっている事業だが、携わった市民以外の仙台市全体が地域に対する関心が高まったかを検証する資料が不足した。改善するためには、行政とともに  
行う検証およびWEBサイトを活用し意識調査に努める必要がある。

※行政とともに行う検証＝定期的に行われる市民の意識に関する調査

③担当者、事務局への問い合わせは2015年4月から7月まで32件あった。

④J C I ASPAC コタキナバル大会にて、J C IアワードをLOM長期的地域社会開発プログラムに申請し、その結果2015年6月に最優秀賞を受賞した。

部門 Long term Local Community program

3 ページ

## Objectives Planning Finance and Execution

目的・計画・財務・実施

### What were the long term objectives of this program

このプログラムの目的は？基本情報に詳述して下さい

このプログラムの目的は、J C I 仙台が、民間企業と行政との連携を図り、市民が地域社会への関心を高めることで能動的な市民のまち「仙台」を構築すること。

### How does this program align to the JCI Plan of Action?

この事業は、どのように J C I の活動計画と合っていますか？

「 The service to humanity is the best work of life.」

- ・ J C I 仙台は、民間企業や行政と連携し、市民と共に、以下の活動計画を実施した。
  
- ・ J C I 仙台は、民間企業や行政に連携を働きかけ、市民活動の環境を創出し続ける。
  
- ・ J C I 仙台は、市民に地域社会への積極的な関心を持たせることで能動的な市民を創造し続ける。

### Was the budget an effective guide for the financial management of the project?

予算は事業の財務管理のための効果的なガイドになりましたか？



- ・この事業をより効果的に発信するために広報に関して工夫した。
- ・事業の告知を地元メディア9社に対して、積極的に行った。
- ・事業に賛同した地元テレビ局5社・ラジオ局3社・新聞社1社が取材に来た。
- ・事業に賛同した民間企業43社あった。

・2013年度予算総額

会場設営費	550,000円
広報費	2,000,000円
※民間企業協力	750,000円
雑費	900,000円

・2014年度総予算

会場設営費	500,000円 = \$4,500 in2014
広報費	2,770,000円 = \$28,300 in2014
※民間企業協力	1,550,000円 = \$15,900 in2014
雑費	230,000円 = \$2,400 in2014

※民間企業協力=協賛

### How does this project advance the JCI Mission and Vision?

どうやってこの事業は、JCIのミッションと、ビジョンを推進しましたか？

ビジョンとミッションに分けて明確に詳述してください

「ビジョンを推進は下記のとおりである。」

- ・JCI仙台は、事業を通して、地域社会に対する関心を高めた市民から更に他の市民へ意識向上を促した。

「ミッションを推進は下記のとおりである。」

- ・JCI仙台は、市民1010人に対し地域社会の人、モノ、歴史などのまちを形成する要素を再認識する機会を提供した。
- ・JCI仙台は、民間企業や行政とのネットワークを構築することで、能動的な市民に活動する機会を提供した。

**By number, how many members were involved in this program?**

事業のスタッフは、何人？数字で記載してください

2年間 = 37人  
2013年 18人  
2014年 19人

**By percentage how many members of the Local Organization were involved in this program?**

LOMメンバーの参加率は、何パーセントですか？%で記載してください

- ・2013年184人中 179人 97%  
※事業設営73人 受賞式106人
- ・2014年189人中 185人 98%  
※事業設営41人 受賞式144人

**Describe the main roles of the participating members in this program**

このプログラムで参加しているメンバーの主要な役割を簡潔に記述してください

- ・「絵・写真・川柳」作品を出品（180人）
- ・選考委員会（1人）  
※理事長が審査員として出席
- ・「絵・写真・川柳」作品の編集委員（5人）  
※地下鉄への作品掲載、バスへの作品掲載、オリジナルポストカード作成
- ・行政、民間企業コミット（30人）
- ・会場設営（37人）
- ・事業PR（20人）

・WEBサイト運営（3人）

ページ5

Community Impact 地域社会への影響

How did the Local Organization measure community impact for this program

どのように、LOMは、このプログラムのために地域社会への影響を測りましたか？

・作品を出品と出展会場に来場した市民にアンケートを取り、事業の実施状況を図った

Q1 皆様のお住まいになる地域に、関心を持つきっかけになりましたか？

YES 547人 NO142人

Q2 題材を探すことにより、まちの魅力を再認識することができましたか？

YES 551人 NO138人

Q3 それは今後のまちづくりに必要と思いますか？

YES 545人 NO144人

・出品作品数

2013年 501作品

「絵」・・・239人

「写真」・・・129人

「川柳」・・・133人

2014年 509作品

「絵」・・・246人

「写真」・・・152人

「川柳」・・・111人

・各メディアが事業の重要性を報道したこと事業に対する評価を客観的に得られた。

① 地元テレビ放送局のニュースに取り上げられ事業の目的を伝播した。

（視聴世帯：89万世帯）

- ② 地元新聞社に事業の記事が掲載され事業の目的を伝播した。  
(発行部数：47万部 推定購読者数：150万人)

### Describe the actual community impact produced by this project

このプロジェクトによって発生される実際の地域社会への影響を記述してください

- ・事業に参加した市民がポジティブチェンジして、地域社会へ高い関心を持ち、家族や友人、他の市民を巻き込むことで能動的な市民の創出が考えられる。
- ・民間企業や行政と連携して市民を援助（サポート）することで、活動する環境が提供され、能動的な市民の活動環境を改善することが考えられる。
- ・事業をきっかけにラッピングバスをモチーフにし、地域の思い出を絵や言葉にして報告しあう夏休みの宿題が浸透しつつある。

ページ6

### Impact on Local Organization LOMへの影響

#### How did the Local Organization benefit from running this project?

どのようにLOMは、この事業を運営することから利益を得たか？

- ・JCI仙台は、多くの市民に地域社会への関心を促した結果、3社のテレビ局、2社の新聞社に取り上げられJCの活動の目的を広げることに至った。
- ・民間企業や行政との連携を通じて、JCI仙台の必要性をこの事業で再認識していただく機会を得た。それは、仙台市長や各民間企業より今後のJCI仙台の活動に対しての協力を受諾頂いたからである。  
※民間企業43社、行政（市役所、市教育局）

## How did the program advance the JCI Mission?

どのようにJCIミッションを推進したのか？

「ミッションを推進は下記のとおりである。」

- ・ JCI仙台は、市民1010人に対し地域社会の人、モノ、歴史などのまちを形成する要素を再認識する機会を提供した。
- ・ JCI仙台は、民間企業や行政とのネットワークを構築することで、能動的な市民に活動する機会を提供した。

ページ7

Long-term Impact of the Program プログラムの長期的な影響

## What is the expected long-term impact of this project?

このプロジェクトの期待される長期的な影響は、なんですか？

- ・ 地域社会に対する関心を向上し続けることで、能動的な市民が多い「仙台」を構築できる。
- ・ 民間企業と行政と連携していくことで市民の活動環境がより整備されます。
- ・ 活動環境が整備されることで、能動的な市民による自立した行動を発生させることができる。

## What changes Would you make to improve the results of this project?

このプロジェクトの結果を改善するために、どんな改善策がありますか？

- ・ 市民へ事業の認識を拡大させ、この事業の運営を譲渡する仕組みを構築する必要性がある。なぜなら、市民がより自発的に行動する環境を提供するためである。
- ・ 民間企業への協力を強化し、市民と共に活動範囲の拡大に努める。それには、仙台市の民間企業100社の協力を目指す必要性がある。
- ・ 事業の目的の拡大性を確認するために、行政と共に仙台市に住み暮らす市民に対し検証を図る必要性がある。なぜなら、より多くの意識を確認し事業の修正を図るためである。